

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農政環境部長

平成 29 年度 兵庫県農業気象技術情報第 3 号 (7 月情報) について (送付)

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
水稲	全 県 共 通	<p>1 病害虫</p> <p>(1) イネ縞葉枯病について、ヒメトビウンカのウイルス保毒虫率は、定点平均で1.4%と昨年に比べてやや低いが、西播磨地域では依然として4.4%、13.0%と高い地点がみられている。小麦における同ウンカの発生量は、すくい取り10回振りで172.3頭と過去5年平均51.7頭の3倍以上となっており、第1世代成虫の水田への飛来が多くなり、本病が助長される条件となっている(ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒検定結果は以下のアドレス参照)。 http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/2017hodoku.pdf</p> <p>(2) プラスタムによると、6月11日以降に県北部で、6月25日以降に県内ほぼ全域で葉いもち感染好適日が出現している。気温は平年並み、降水量は平年並みか多く、曇りや雨の日が多いと予想されるため、葉いもちの発生がやや多くなる可能性が高い。今後の発生に注意する。</p> <p>(3) カメムシ類による斑点米の発生が予想される。</p>	<p>1 病害虫</p> <p>(1) 保毒虫率の高い地域や昨年度発病が多く見られた地域では、本田での薬剤防除を実施する。特に、育苗期後半～田植時に薬剤施用をしていない場合は必ず実施する。保毒虫率が低い地域であっても、ヒメトビウンカの発生が多いと本病が多発生することがあるので注意する。</p> <p>(2) 補植苗は早急に処分する。ほ場をよく観察して葉いもちの発生状況を把握する。特に、湛水直播には注意が必要である。葉いもちが発生している場合はただちに防除する。また、強い中干しを避け、穂いもちの防除は穂ばらみ期～出穂直前に実施する。</p> <p>(3) カメムシ類対策として出穂2週間前までに畦畔の草刈りを行い、乳熟期から糊熟期までに防除を行う。</p>
	県 北	<p>1 生育状況</p> <p>葉齢の進展は平年よりやや遅く、草丈は短く、茎数は平年より多い。</p>	<p>1 生育状況</p> <p>出穂期予測を参考に穂肥の施用を行う(分施肥系の場合)。</p>

水稲	全 県 共 通	1 生育状況 葉齢の進展は平年並み。草丈は平年より長い。莖数は平年並である。	1 生育状況 出穂期予測を適宜確認し、中干しの実施、穂肥（分施肥体系の場合）を施用する。中干しは小ひびが入れば走り水を施し、おおむね10日間程度とする。
大豆	全 県 共 通	1 栽培管理 「サチユタカ」は、播種適期の7月上旬を目途に12株/m ² の密播とする。 2 病虫害	1 栽培管理 播種直前に耕うん、砕土を丁寧に行い、播種する。 明きょ等の排水対策を必ず講じる。 中耕培土を行う場合は、除草を兼ねて早めに行う（目安は本葉3葉期以降）。 2 病虫害 黒大豆の茎疫病の常発地では、排水対策を徹底する。

※ブラスタム:葉いもちの発生予測システム。気象条件から感染を推定し、発生時期を予測する。
毎週、水曜日に更新。

[参考] 水稲生育予測 [近畿中国四国版] (注)

(6/26 現在)

時 期	北但平坦部 (豊岡市八社宮) 移植日 5/15 3. 5葉植 コシヒカリ	県北山間部 (新温泉町丹土) 移植日 5/10 3. 5葉植 コシヒカリ	南但平坦部 (朝来市和田山町枚田) 移植日 5/20 3. 5葉植 コシヒカリ	県南平坦部 (加西市別府町) 移植日 6/1 3. 5葉植 キヌヒカリ	淡路平坦部 (南あわじ市榎列) 移植日 6/20 3. 5葉植 キヌヒカリ
予想 出穂 期	8/3	8/8	8/5	8/12	8/20

(注) 予想出穂期は6/26以降、気温が平年並に推移した場合の予測値です。

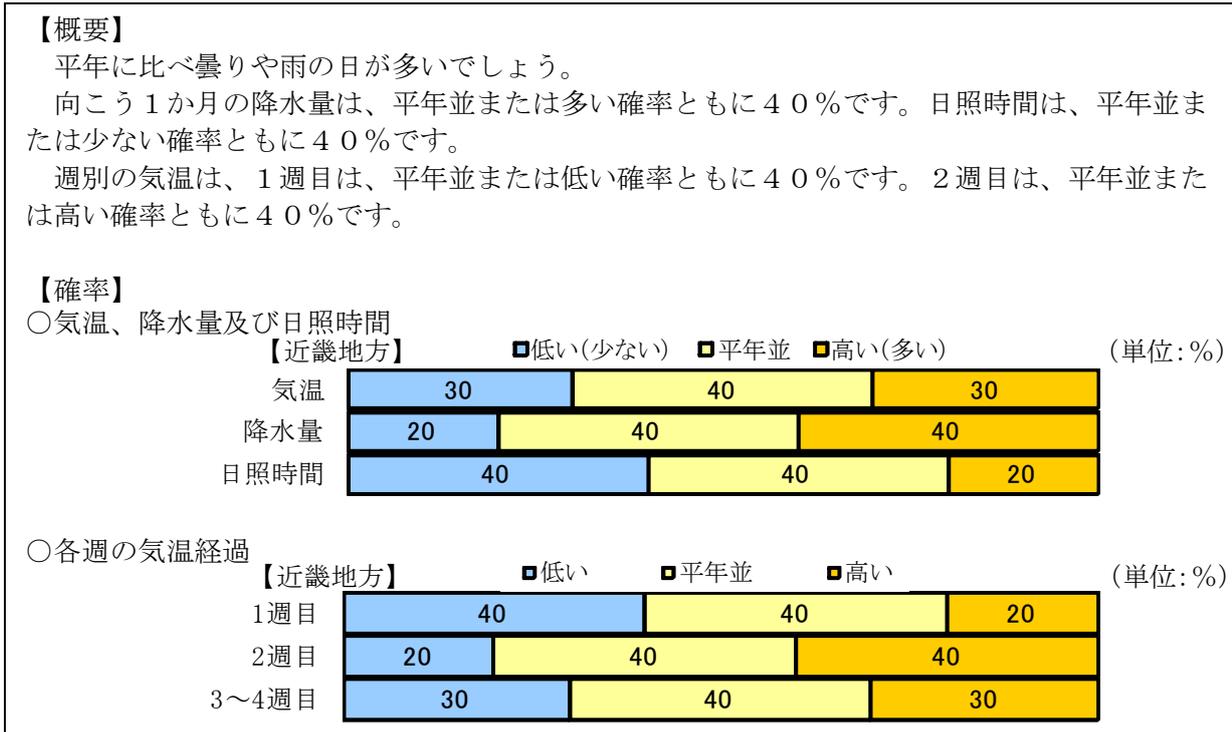
作物	地域	栽培上の留意点	対応策								
キャベツ	全県共通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 目標とする収穫時期に応じた播種時期を守る。</p> <p>(2) 高温時の育苗のため、乾燥や過湿にならないよう管理して健苗育成に努める。</p> <p>(3) 育苗中期以降の肥料切れに注意する。</p> <p>(4) 降雨によるほ場作業の遅れ、台風、長雨による冠水に注意する。</p> <p>(5) 定植後の灌水等活着促進、欠株の防止に努める。</p> <p>2 病虫害</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 地域の暦に従って種子、育苗資材等の準備を進める。</p> <p>(2) 浮かせ育苗に努め、徒長に注意する。発芽後、子葉の形状が異常な苗は除く。</p> <p>(3) 早めに液肥等による追肥を行う。</p> <p>(4) 高畝栽培とし、明きよ等の排水対策を徹底する。</p> <p>(5) 本田は灌水が可能なほ場を選び、適切な土壌水分の時に耕うん、畝立てを行ない、すみやかに定植する。 機械移植では、苗が直立し、鉢土が土壌に埋まるよう注意し、不十分なものは手直しする。 定植後、灌水チューブ等で十分に灌水する。</p> <p>2 病虫害 「病虫害発生予察情報」「病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考に適正に防除する。</p>								
果樹	全県共通	<p>1 生育</p> <p>6月20日現在、入梅後の雨量が極めて少ないため土壌管理に留意する。</p> <p>樹種別の生育状況</p> <table border="1" data-bbox="347 1469 1337 1688"> <tbody> <tr> <td>クリ※¹</td> <td>開花期は昨年比で5日遅く、平年比で3日早かった。</td> </tr> <tr> <td>ブドウ※¹</td> <td>開花期は昨年比で7日遅く、平年並であった。</td> </tr> <tr> <td>ナシ※²</td> <td>生育は昨年比1週間、平年に比べて3～4日遅い。</td> </tr> <tr> <td>イチジク※¹</td> <td>発芽期は平年比で4日早い。着果始めは平年比で3日早い。</td> </tr> </tbody> </table> <p>調査地点：※¹は加西市、※²は但馬地域</p> <p>2 病虫害</p> <p>ナシは高温少雨のため、一部の園でハダニ類の発生が多い。病害の発生は平年並み。</p>	クリ※ ¹	開花期は昨年比で5日遅く、平年比で3日早かった。	ブドウ※ ¹	開花期は昨年比で7日遅く、平年並であった。	ナシ※ ²	生育は昨年比1週間、平年に比べて3～4日遅い。	イチジク※ ¹	発芽期は平年比で4日早い。着果始めは平年比で3日早い。	<p>1 生育</p> <p>降雨が多くなった場合に備え、雨水がすみやかに園外に流れるよう、明きよや排水溝の掃除等の排水対策に努める。 高温少雨が続く場合は、灌水設備や敷き草などで乾燥防止対策を実施する。また、早めの灌水を行う。</p> <p>2 病虫害</p> <p>高温少雨が続く場合、ハダニ類等の害虫に留意し、適期防除に努める。 梅雨明け後、高温少雨が続く場合には早めの灌水を行う。 雨で発生が助長される病害等に留意し、降雨の合間を見て適期防除に努める。</p>
クリ※ ¹	開花期は昨年比で5日遅く、平年比で3日早かった。										
ブドウ※ ¹	開花期は昨年比で7日遅く、平年並であった。										
ナシ※ ²	生育は昨年比1週間、平年に比べて3～4日遅い。										
イチジク※ ¹	発芽期は平年比で4日早い。着果始めは平年比で3日早い。										

◎水稲・麦・大豆の栽培については、「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病虫害発生予察情報」及び「病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考にすること。
※本情報は、6月26日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

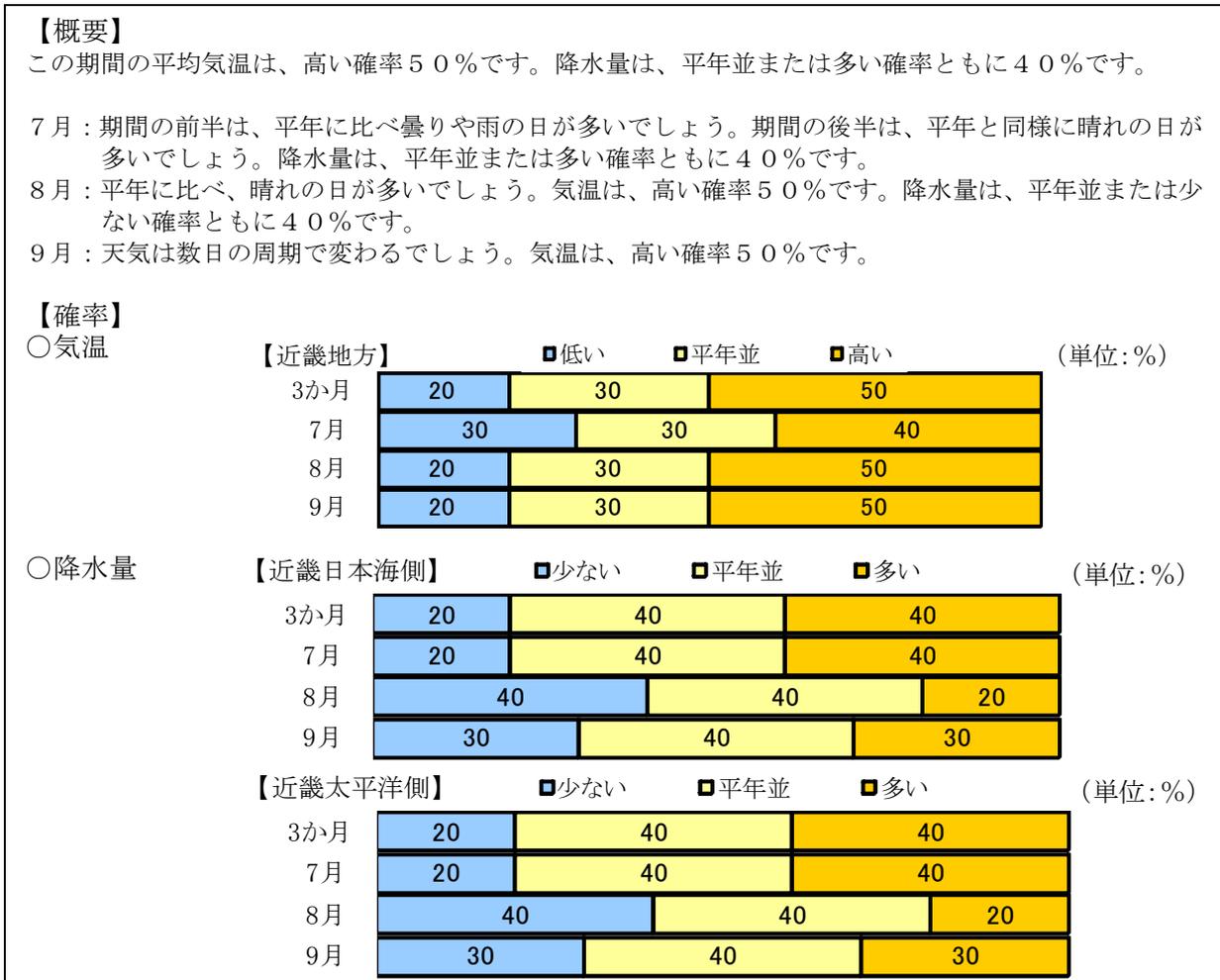
(1) 近畿地方の向こう1か月予報（6月24日～7月23日）

[平成29年6月22日 大阪管区気象台発表]



(2) 近畿地方の向こう3か月予報（7月～9月）

[平成29年6月23日 大阪管区気象台発表]



※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010年)における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「病害虫発生予察情報」
<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>
- ・「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」
<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>
- ・「Web 水稲生育予測システム」
<http://www.aginfo.jp/RGP/>
- ・「携帯用水稲生育予測」
<http://www.finds.jp/ricediag/kt/index.php>
- ・「ブラスタム情報」
<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」
http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html
- ・「平成 29 年度ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒検定結果」
<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/2017hodoku.pdf>

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課 TEL (078) 341-7711 (代表)
農産班:主作・機械担当 内線 4074
農産班:野菜担当 内線 4054
花き果樹班 内線 4066

技術内容に関すること

- ・県立農林水産技術総合センター
企画調整・経営支援部 TEL (0790) 47-2435
農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790) 47-2410
農業技術センター 病害虫部 TEL (0790) 47-1222
北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079) 674-1230
淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799) 42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html

(兵庫県トップページ>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)